

ジュラ紀新世における放散虫化石の特性

Characteristics of the Late Jurassic radiolarians

石田 直人 [1]

Naoto Ishida[1]

[1] 新潟大・自然

[1] Sci. and Tech., Niigata Univ.

ジュラ紀新世中期 Kimmeridgian 期は、ある放散虫にとっては快適で、またあるものにとっては厳しい時期であったのかもしれない。この時期の放散虫化石群集の多くは、ジュラ紀中世に出現した種によって占められている。多節 *Nassellaria* や、*Willriedellum* 属、*Zhamoidellum* 属などの球状 *Nassellaria* の各種は、ジュラ紀中世から新世にかけて存続し続けたグループである。一方で、やはり球状の *Nassellaria* であり、ジュラ紀中世から新世前期にかけて優勢であった *Striatojaponocapsa* 属や *Kilinora* 属の種のほとんどは、Kimmeridgian 期までに消滅している。

Kimmeridgian 期は汎世界的な温室期として知られる。この時期にテチス海西部では有機質泥岩の堆積が知られるなど、海洋はある極相に至っていたのであろう。ジュラ紀中世から新世にかけての球状放散虫の淘汰は、この海洋の極相状態によって生じた可能性が考えられる。ジュラ紀新世の海況に適した形質を明らかにするためには、殻の内部構造に関するさらなる検討が必要である。